

平成28年5月定例教育委員会会議録

平成28年度塩尻市教育委員会5月定例教育委員会が、平成28年5月26日、午後1時15分、塩尻総合文化センター301多目的室に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について
報告第2号 6月の行事予定等について
報告第3号 後援・共催について

4 議 事

5 その他

- その他第1号 塩尻市青少年スポーツ大会出場激励金交付要綱の制定について
その他第2号 平成28年度教育委員会関係補正予算（案）について<期間限定非公開>

6 閉 会

○ 出席委員

委員長	小 澤 嘉 和	職務代理者	林 貞 子
委員	石 井 實	委員	小 島 佳 子
教育長	山 田 富 康		

○ 欠席委員

なし

○ 説明のため出席した者

こども教育部長	岩 垂 俊 彦	こども教育部次長 (教育総務課長)	青 木 実
こども課長	青 木 正 典	家庭支援課長	百 瀬 公 章
生涯学習スポーツ課課長補 佐(スポーツ推進係長)	田 下 高 秋	平出博物館館長補佐	小 松 学
男女共同参画・人権課長	熊 谷 善 行		
市民交流センター長 (図書館長)	中 野 實 佐 雄	市民交流センター次長 (子育て支援センター所 長)	赤 津 廣 子
交流支援課長	小 松 秀 樹	図書館副館長	上 條 史 生
主任学校教育指導員	確 井 邦 雄		

○ 事務局出席者

教育企画係長

米 窪 昌 紀

1 開会

小澤委員長 こんにちは。急に暑くなり、体力的にも大変であります。こんな中ですが、よろしくお願ひします。ただいまから5月の定例教育委員会を開会いたします。本日は、生涯学習スポーツ課長が欠席、平出博物館の中島館長も欠席との通知をいただいております。小松館長補佐がかわりに出てくださっております。

2 前回会議録の承認について

小澤委員長 次第に従いまして2番、前回会議録の承認について事務局からお願いいたします。

米窪教育企画係長 前回4月定例教育委員会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名をいただきますので、よろしくお願ひいたします。

小澤委員長 そのようで、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

小澤委員長 では、そのようにお願ひいたします。

3 教育長報告

小澤委員長 3番、教育長報告に入ります。教育長から総括的にお願ひします。

山田教育長 今日もそうですけれども、連日5月とは思えない気温の高い日が続いております。今週末運動会を控えております市内4校では、運動会の準備がいよいよ佳境に入っておりますが、健康管理と安全に気を配った練習をしていただいております。

さて、各学校では新年度がスタートして早くも2カ月が過ぎようとしております。校長先生方との当初面談の中では、どの学校も落ち着いた雰囲気の中で新年度のスタートが切られているという話を聞いております。うれしく思っているところであります。

それでは、きょうは東京都の中学生が列車にはねられて死亡した事故、また、春の市内全保育園訪問を通して、さらにさきの公民館研究集会の3つを通して考えたことや、これから実践に移していかなければならないと思ったことについて報告をしたいと思ひます。

初めに、東京都で中学2年生の仲のよい女子生徒2人が電車にはねられて死亡するという痛ましい事故のことについて、校長会、教頭会で話題にして、考え方を共有し、お願ひしてきたことについて報告をいたします。今回の事故で警視庁は、2人が自殺を図ったと見て今調べを進めているようであります。私は、こうしたニュースに接するたびに、未来ある子供たちの自殺を何とか防ぐことができなかつたんだらうかと強く思ひます。

今回の事故では、1人の生徒の抱える死を考えるほどの苦しさが、親友との間では深く共感できていたと思われまふけれども、それが信頼できる大人に伝わるものがなかつたこと、またその苦しさに、周囲の友達や学校、教職員、家族を初め、かかわりの深い大人たちが気づけなかつたことが何としても残念でなりません。これまでのさまざま調査を総合してみると、死にたい、消えてしまいたいと思うことのあつた中学生は、30%とも40%とも言われています。また、死にたい、消えてしまいたいと友達から相談された子供たちも20%程度いると言われています。この数字は、どこの地域のどこの学校でも、自殺願望を持つ子供やそれを相談される子供がいてもおかしくないという現状認識の必要性を示しております。そうであるならば、自殺の問題もいじめや不登校と同

じように、普段から予防のための取り組みを全職員で共有の上、学校全体として進めていくことが必要ではないかと思えます。自殺予防に関しては、確かな児童、生徒理解が何よりも重要ですから、保護者と十分連携し、集団の中にある子供たち個々の心のひだをさまざまな視点から見つめ、感じ、共感し、継続的に寄り添い、信頼関係をつくってつながっていくという生徒指導の根幹に当たる部分を、今すぐに、強化していくことが必要で、また、そうした力を教職員がつけることがまずは必要ではないかと思えます。そんなことを話題といたしました。

次に、市内の公立、私立の全保育園、こども園を訪問して思ったことを報告いたします。子供たちの育ちの姿や保育士の皆さんの保育に向かう姿を通して実感したことを端的に言えば、保育園現場が年々着実に進化し、充実した幼児教育の現場となっているということを強く思われました。少し具体的に言えば、公立の全園で行われている個別支援保育の取り組みの成果である、狙いを持って保育に当たること、一人ひとりの育ちに即した環境を整え働きかけをすること、見通しを持って保育し、育ちを丁寧に位置づけることなどが日常の保育の中で積極的に生かされているということを感じました。そうした保育により、子供たちは安心して園生活を存分に楽しみ、背筋を立ててよく聞き、互いによく応援し合い、よく認め合っていました。また、動と静のメリハリのある活動や、活動に取り組む豊かな表情も印象に残りました。こうした姿は、保育士の皆さんが日々研修を重ね、実践を通してチーム一丸となってよりよい保育を求めてきた結果であると思えます。その一方で、全園で共通した課題も浮かび上がってきました。五感を通して遊び込んだり、身の回りの人、もの、ことと向き合う主体的な体験を通したりして、さらに生きる力を高める保育や、子供を育てる家庭環境改善への積極的な支援などです。こうした課題について関係者内で共有し、保育士にかかわるさまざまな会議や研修の機会を通し、改善の糸口を見つけつつ実践に結びつけていきたいと思ったところであります。

最後に、先日行われました公民館研究集会に参加して考えたことについて報告をいたします。今回は生涯学習センターにおいて、「公民館活動の今後の方向を考えるとともに、日常の公民館活動のあり方を考えてみよう」をテーマとした研究が行なわれ、小グループ討論がなされました。現代の新しい公民館に求められるようになってきていることは、地域課題や現代的な課題の把握と課題解決のための学習の推進、また、解決に向けた実践とそれによる地域コミュニティの活性化にあるとされており、しかしながら、ディスカッションの中で挙げられた現実の公民館運営の課題は、高齢化で役員のなり手がなかなかない。行事に人が集まらないし、集まる顔ぶれはいつも似ている。前年度踏襲で行事がマンネリ化しているのではないか。魅力が感じられない。価値観が多様化し、若者を中心に公民館活動への関心が高まらない。といったものが多く挙げられ、そうした課題に対してどう公民館がこれから考えていけばよいかということが話し合われておりました。現実的には、公民館において地域課題を共有し、課題解決に向けての創造的な学びや活動の実施はなかなか厳しいものがあるなということを感じました。こうしたことから、今後は公民館活動という範疇だけではなく、地区行政のあり方を初め、支所機能のあり方の検討や地域コミュニティの維持と活性化、さらにコミュニティ・スクール推進など、複数の関係部署が連携し地域づくりを進めることがどうしても必要になるのではないかと思ったところであります。今後の連携のあり方、方向を模索しつつ、先を見通していかなければならないなと思ったところであります。以上で、私からの報告を終わります。よろしく願いいたします。

小澤委員長 ありがとうございます。教育長の報告に関する事、あるいはそのほかのことでも結構ですが、お聞きしたい点、あるいは話題等を提供していただきたいと思えます。

片丘小学校の主幹指導主事訪問がありました。感想等、気づいた点とかがありましたら、お話し

してもらえればありがたい。石井さん、片丘小学校の学校訪問で気がついたこと。

石井委員 思い出したこと。

小澤委員長 石井さんが話してくれたコミュニティの部屋確保はいかがですか。

石井委員 学校にお願いしたことは、コミュニティ・スクールをやるならば、コミュニティで集まってくれる人たちの教室を確保してほしいと。今は空いた教室がいっぱいあるから、それを何とかコミュニティの皆さん方が集まって、そこでお茶を飲んだり休憩したり座談ができるようなスペースをお願いしたいなということだけはお願いしてまいりました。ただ、今まで片丘小学校についてはいろいろとあったんですけども、非常に今回行って見て私は、すごく落ち着いたいい子供たちになったなあというふうに感じました。以上です。

小澤委員長 コミュニティ・スクール導入にかかわって、気軽に集える部屋を各学校はつくっていただけありがたいと、そんなことです。

石井委員 空き教室ができたと思うんで、そこへ玄関を通らなんでも行けるというようなことが一番ベターかなと思っています。

小島委員 私は校長先生のお話を聞いていて、児童の昇降口の屋根のところに外灯がなく、市の教育委員会にお願いしたら、すぐつけてくださったとか。ほかだとなかなか教育委員会に言っても、すぐには対応してくれないのに、塩尻市はすぐ対応してくれて、本当にありがたかったと、早朝に出発する修学旅行のときとか大変役立っているとおっしゃってくださって、感謝の言葉をいただきました。大変うれしく思いました。

小澤委員長 フットワークのよさ、すぐに対応する教育委員会の姿勢を喜んでおりました。

林職務代理者 私は、初めて片丘小学校へ行って見たのですが、全学年が1クラスということで、まとまったいい学校だという印象を受けました。それと、小林校長先生が非常にやさしいお人柄で、一人ひとりの子供たちに丁寧に向き合っていて、不登校ゼロとか、来れない子供たちにも、来たら、ああよく来たなあとか、声をかけるとかかって、すごく細かく神経を使っている感じがよくわかりました。それとあと、カタオカザクラというのが、私は普通のソメイヨシノと同じだと思って校長先生にお話ししましたら、違う種類だと教えていただきました。この後の行事のところにも書いてありますけれども、瓶の中にカタオカザクラを入れてつくったということで、その作品が並んでいたんですけども、とてもきれいな花で、なかなかふえていかないというようなこともおっしゃっていたので、何かいい方法があったらいいなあと思いながらも、本当に有意義な時間を過ごすことができました。以上です。

石井委員 私は教育長先生のお話のことでちょっと考えていたんですけども、この女の子2名は、自殺するまで至るということ。今、この学校はわかりませんが、要するに、生徒数が少なくなっている、どこもそうかなあなんて思って、多くなっているところもあるかと思えますけれども、生徒数が少なくなると先生方の目が届きやすくなっているにもかかわらず、いろいろな問題が起こっているということはどういうことかなあと感じていたわけあります。この学校が本当に何名の教室でもってやっているのかなあということもわかりませんが、そんな中もって生徒数が少なくなっていけば、そういった問題というのは見抜けないものかな、先生は何をやっているのかなあということを考えていました。申しわけありません。

小澤委員長 中学の2、3年の特に女の子は、本当に気をつけなくちゃいけないなというのが実体験なんです。グループから距離を置く関係では、ややもすると仲のよい友達通しでグループをつくり、その殻の中に閉じこもっていきがちです。誰かれとも交わらなくなってきた、2人なら2人、3人なら3人の中で、「おもしろくないね、何かしたいね、どっか行っちゃおうか」、あるいは、「死

んじゃおうか」とか。そういうような話題になってくると、それが、その考えだけが先走っていっちゃうんです。今回も多分そういう気持ちの高まりで、2人で天国に行っちゃおうというふうになったんじゃないかなと思うんです。周りが、それを察知するというのは非常に難しい。子供の中にしょっちゅう入って、コンタクトをとっていかないと、そういう現象というのは見抜けない。いつだったかの事件、高校進学の内申書の中で、どうせ先生は聞いてくれないもんね、こういう一言を言ったことがありました。これを担任の指導ミスとマスコミは取り上げたんですが、子供はそういうように、どうせとなったとき、これは気をつけなくちゃいけないと思います。

山田教育長 保育園訪問をしていて、園長先生たちに子供たちのエピソードを、昨日まではこうだったんだけど、今日初めてこういうことをしたとか、今まであの子には話しかけられなかったんだけど、初めて話しかけたとかって、そういうエピソードをどうやって累積しているんですかと聞きました。ある園の園長先生は、保育士の皆さんの多くがエプロンの中に付箋を入れていてその付箋へ忘れないうちにすぐに書いて、保育の終わった後それを整理していると話してくれました。そういうきめ細かな児童理解、生徒理解ということを学校現場ができているかどうか、特に中学で教科担任制になってきたときに、今この時間でおやっと思ったことが、次の担任のところへ伝わっているかどうか、担任同士で共有できているか、そのことが非常に学校現場では難しいところで、そのあたりを今回、主には教頭会のところで話をさせてもらいました。どうしたら先生たちがきめ細かに児童、生徒の理解ができるか、それがなければ、絶対に見えないわけなので、それを見る努力とか見る力をつけていくことが必要だと思います。このことは生徒指導だけでなく、恐らく特別支援教育でもそうだろうし、学力向上でもきちんと見ているかどうかということにかかってくると思うんですよ。

それから、今回の事故があつてからいろいろな資料を見てみると、ある統計の中で、自殺をしたいというように相談されて、解決したものと解決しないものを見たときに、相談された相手が受け切れずに実際に自殺に至ったケースが非常に多いということがあったそうです。生徒同士の中で特に仲のよい2人の中で、「私、ちょっと消えてしまいたいんだけど」と言われたときに、受けとめきれずに、最終的には自殺に至ったケースが非常に多いということが書かれておりました。予防の一番大切なことは、話しかけられ、相談された人が、委員長が先ほど言った一緒になってその深みへはまっていってしまうということのを避けることです。ということは、必ず信頼できる大人につなげるという、そういう予防プログラムを学習していかないと、まだまだ相談されたんだけど解決できなくてということになってしまう可能性があります。そのあたりも含めて自殺予防のプログラム、小学校、中学校のものが文科省のホームページ上に出されてきているので、今回はそれを紹介をして、すぐそれをそのままというわけにはいかないと思いますが、学校では教職員の実態や思い、また、や生徒の特性などを考え合わせながら、できるところから進めていく必要があると思っております。

小澤委員長 ありがとうございます。今、保育園の先生方はポケットにメモを入れている、すごいことだなあとと思います。私たちが若い時に上田薫という大先生に教わったことがあるんですが、上田先生は、必ずメモ帳を持っていなさい、あの子、その子、おやっと思ったこと、あれっと思ったこと、何か通常と違うことがあったときには必ずメモしろと、それがカルテだよ、それをやらないうような教師は教師とは言えないよと、常に言われてきたんです。それを保育園の先生方が実践しているということは大変すごいことだなあとと思います。そこで、小学校、中学校で、カルテ教育ができるようになってくると塩尻の教育はハイグレードです。よく先輩方に、保護者懇談会のときに、エピソードを語れるような教師になれと言われましたが、やっぱりカルテがなきゃしゃべれないも

のです。

石井委員 何かサインは出ていると思う。

小澤委員長 思います。

石井委員 それを見抜く力を持っている教師がいるかないかだと私は思います。

小澤委員長 全くそのとおりです。

石井委員 ましてや、1人じゃなくて2人で悩んでいるなんていうのは、余計わかるはずではないかなあと思っているけども、こういう事件が起きたということは、わからないでしまったということだと思ってくれるけども、それはやっぱり常々先生方がよく注意をしてもらっているということが必要ではないかなあというふうに、つくづく私は考えるんですけれども。この話は尽きないと思いますので。

小澤委員長 ありがとうございます。また総合教育会議のほうで続きをお話しできたらと思います。コミュニティ・スクールの続きなんですけど、片丘小学校へ行ったときの話題です。それは、結構お年のボランティアの方がたくさん学校に入るようになり、階段の上り下りに難儀をしている場面がある、ぜひ手すりをつけてほしいという要望がありました。各学校では、手すりがついていたでしょうか。今まであまり気にならなかったんですが、またそこら辺もチェックしておいていただければありがたいです。教育長報告、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○報告第1号 主な行事等報告について

小澤委員長 それでは、主な行事等報告に移ります。1ページから3ページですけれども、事務局から補足ありましたら、補足をお願いします。

小松交流支援課長 それでは、2ページの一番下をお願いいたします。先ほど林委員さんからもちょっと触れていただきました。5月1日に「カタオカザクラ」フラワーボトル教室を実施いたしました。10代から60代まで幅広い年齢の方28名が参加していただきました。カタオカザクラのPRも兼ねまして、会場には桜の写真を展示したり、また、カタオカザクラ保存会の方により、カタオカザクラの歴史や特徴を説明していただきまして、最後にきれいなフラワーボトルの作成をいたしました。改めてカタオカザクラの勉強になったと、喜んでいただいた声が多くありました。以上です。

小澤委員長 お願いします。

上條図書館副館長 資料3ページ、図書館のほうの行事について報告いたします。信州しおじり本の寺子屋、今年度5月15日、これ、1回目でございますけれども講演会を開催いたしました。「本の寺子屋」の本づくりということで、このほど刊行されました「本の寺子屋が地方を創る」という書籍を執筆・編集に携わっていただきました高橋龍介さんを講師にお迎えをいたしまして、これまでの4年間の本の寺子屋の事業を振り返りまして、それに関する内容での講演会でございます。参加者41人とありますけれども、このうち市外の方も約半数いらっしゃいまして県外の方も6名、そのほか県内の市外の方15人というようなことで、塩尻市内外に注目が集まっているという状況でございます。アンケートを実施しまして26人が回答いただきましたけれども、内容が大変興味深かったという方が26人中20人という結果でございますし、初めて参加をされたという方が10人いらっしゃいました。そんなことで今後、この本の寺子屋事業ですね、中心的な事業で進めてまいりたいということでございます。

この報告には間に合っておりませんが、この翌週5月21日には2回目が既に開催をされ

まして、次回報告いたしますけれども、このほど40人強の参加者がいたということでございますし、また、遅ればせながらお手元にパンフレットをお届けできたかと思っておりますけれども、子供のほうの寺子屋をですね、今週の28日土曜日に初めてのものが開催されます。現在、それに先立って企画展を実施しております。そんなことでございますので、また機会がありましたらぜひごらんいただければということで計画させていただきます。以上です。

小澤委員長 ありがとうございます。お願いします。

小松平出博物館長補佐 資料1ページになります。妙義山城を歩こうということで、4月30日に行いました。同様のものを以前、平成26年に妙義山城を歩こうという計画をしましたが、このときは熊の出没騒動が起きて中止ということで、今回改めて開催したことになります。この妙義山城というものは、洗馬にあります16世紀中ごろに築城された三村氏のお城ということで伝わったもので、これをただ歩くだけではなくて、長野県の埋蔵文化財センターの河西先生、そして中世城郭研究会の三島先生、このお二人の方に実際の歩きながら説明をしていただいて、これは昔の城の跡ですよとか、そういったものを実際見ながら説明していただくということで、予想以上に多くて95の方が参加されました。このことによりまして、今、真田丸のこともありますし、山城に大分関心のある方がふえまして、その1つとしまして、今後、洗馬地区のほうで妙義山城の整備を行っていきたいという動きがあるというふう聞いておりまして、大変成果が上がったものだと思います。以上です。

小澤委員長 お願いします。

田下生涯学習スポーツ課長補佐 引き続きまして、5月15日、第28回ファミリースポレクフェスティバルを開催いたしました。天候にも恵まれて、体力測定やチャレンジコーナーなど多くのコーナーで親子の触れ合う機会を提供することになったものとなりました。参加人数につきましては、例年並みの1,448人ということで御参加をいただいております。以上です。

小澤委員長 それでは、委員の中から参加された中での御感想等お寄せください。

林職務代理者 済みません、参加はしてないんですけども第1回DVD鑑賞会ということで、第1回って書いてあるってことは、これは継続的にどのくらいの頻度でやるのか、またその作品に対するテーマみたいなものがあるのかってことと、あともう1点、子どもの本の寺子屋のことで、ちょっとタウン情報のほうにもあったんですけども、目指せ！図書館マイスターっていうのを企画されたってことで、とてもユニークな斬新な企画だと思うんですけども、これが一応30日が締め切りだってことなんで、その今の応募の状況なんかをお聞かせ願えたらありがたいです。お願いします。

小澤委員長 お願いします。

上條図書館副館長 まず、1点目のDVD鑑賞会ですけども、ちょっと年間のスケジュール、ちょっときょう手元にありませんけれども、複数回行います。これ、テーマをということですね。

林職務代理者 何かそういうのがあるのかなと思ったのですが。

上條図書館副館長 これ、DVDを館内でお見せするという上で若干制限がございまして、要するに館内で一般に放映してもよいというもの、あくまで自宅観賞用の目的でというDVDの区分がございまして、そういったことで若干古めの作品が多くはなります。また、新しい作品をですね、無料でこれ、行っておりますので、放映しますと、いわゆる映画業界等との関係性もございまして、ちょっとそんなことで、新しいことをいち早くということではございまして、古いものも含めて許す限りで機会を提供しているというものでございますので、よろしく願いいたします。

次に、本の寺子屋でございます。「目指せ！図書館マスター」ということで募集を行いましたけれ

ども、これ、受け入れの体制でちょっと少なめなんですけど15人という設定をして、定員になり次第締め切りということで募集を開始いたしましたけれども、思ったより反響がございまして、とりあえず20人まで受け入れようということで、20人で切ろうとしたんですけども、さらに応募が来たものですから25人まで拡大いたしました、残念ながら、ちょっとそれを過ぎたものについては締め切りをさせていただいております。大変関心を寄せていただいたお子さんが多かったということで初の試みですけれども、またこれ、全12回ということで、12月までの間日曜日に、ここにパンフレットがございましてけれども、多いときには月2回開催されているわけですけれども、そこに全て出られることを条件にということで募集をした結果としてはですね、大変多くの皆さんに応募いただきまして、充実した講座になることを今から期待しております。以上でございます。

林職務代理者 何か、こういうのがキャリア教育につながっていくといいかなと期待しております。

小澤委員長 最近、自然博物館とか平出博物館とか、記事に載るのが非常に多いように思われます。ということは、市民の関心が高い、その証拠かな、なんてことを思い、うれしく読ませてもらってます。

行事、よろしいでしょうか。

小島委員 委員長、私も。ファミリースポレクに参加させていただきまして、本当に天候にも恵まれて、お子さん連れの御家族や友人同士でいらっしゃったお子さんたちがたくさん来ていて、市民が本当に気楽にスポーツを楽しむよいイベントだったと思います。ありがとうございました。

あと、全く教育委員会には関係ないのですが、21、22日に行われたワイナリーフェスタにも私、参加させていただきまして、すごいですね、ワイナリーフェスタの盛り上がりは。周りの方のお話聞くと、わざわざ宿泊して来てくださった県外からの方もたくさんいらっやいまして、今年は去年ワイン特区に認定されて新しいワイナリーが1つふえたことで、また余計に楽しみ方が広がって、これからワイン特区に認定されたことで少しでも1つでもいいので、新しいワイナリーがふえていって大々的なイベントになったら、長野県を代表するようなイベントになったらいいなと本当に思いました。このイベントもチケットを持っている方とワイナリーさんだけじゃなくて、何か市民がこうそこに交わってくるっていうか、一緒に何かできる、御柱のお休み処じゃないですけど、市民が例えば自宅をオープンハウスにしていく、なっていってくれたらいいなって、私の何か勝手に、私の中ではそういうふうに感じました。大変よかったです。これから益々期待しています。

ありがとうございました。

○報告第2号 6月の行事予定等について

小澤委員長 それでは次、6月の行事予定に移ります。目で追っていただいで、全員に関係するものは、3日、主幹指導主事訪問、広丘小学校です。それから10日に市民芸術祭・展示の部の発表があります。11日が中体連の大会です。21日がコミュニティ・スクールの連絡協議会と研修です。そして27日が教育長任命などなど、総合教育会議等があります。6月の行事予定、確認等、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○報告第3号 後援・共催について

小澤委員長 後援・共催の報告についてはいかがでしょうか。これもよろしいでしょうか。

4 議事

5 その他

○その他第1号 塩尻市青少年スポーツ大会出場激励金交付要綱の制定について

小澤委員長 それでは、その他第1号、塩尻市青少年スポーツ大会出場激励金交付要綱の制定についてであります。事務局から御説明をお願いいたします。

田下生涯学習スポーツ課長補佐 よろしくお願いいたします。資料のNo. 4、10ページとなります。青少年スポーツ大会出場激励金交付要綱ということで、新たな制度を制定するものでございます。制定の理由につきましては、全国大会、または国際大会に出場する青少年に対しまして激励金を交付することに伴い、新たな要綱を制定するものです。概要といたしまして対象と金額を定めるものでございます。

施行の予定日につきましては、6月22日を予定しております。

それでは、次ページをお願いいたします。実際の激励金の区分対象者、額でございます。全国大会につきましては、基本的に市内に在住する青少年で、お一人につき1回目3万円、2回目1万円。団体につきましては、小中学校の団体につきましては1回目3万円、2回目1万円。高等学校・大学につきましては1回目5万円、2回目1万円、国際大会が10万円、オリンピック等が30万円という形で激励金を定めさせていただいたものとなっております。こちらの激励金につきましては、市議会の6月定例会におきまして、基金条例を改正しスポーツ夢基金という項目を追加する改正をさせていただきまして、その基金を財源とした激励金とさせていただくものでございます。以上です。

小澤委員長 御説明ありがとうございます。額、対象区分、回数等々について御質問いかがですか。

石井委員 これは、全国大会とうたってあるけども、全国大会にもいろいろあるんだけど、例えばどんな試合だとか単発の試合とか、そういった大会でも全部対応するわけですか。

田下生涯学習スポーツ課長補佐 今回、教育委員会の中には、実際要綱のですね、文章につきましては省略をさせていただいておる形で申しわけございませんでした。内容といたしましては、国または日本体育協会、もしくはこれに準ずる団体が主催する大会ということで規定をさせていただきますので、例えば委員おっしゃられた大会の部分が、日本体育協会の下部組織でありますそれぞれの団体が主催するものであれば、対象とさせていただくものでございます。ただ、一企業が冠をつけて主催するような大会につきましては、こちらの対象としないという形を取らせていただいております。

石井委員 ここら辺は、はっきりしとかなきゃいけないんだけど、例えば、我々全日本軟式野球連盟、これは体協の下部組織ですが、それが主催する全国大会っていうのは、学童、少年、成年、成年に至っては、さっき言ったような下部、宮様の大会っていうのは全国大会でやっており、それ全ていいってことだね。

田下生涯学習スポーツ課長補佐 青少年が出場する大会については基本的に全て対象といたします。ただ、一部ですね、例えば予選会を、県レベルの予選会を開催せずにいきなり全国に行ってしまうものでございますとか、結果として予選会に出場した全てのチームが全国大会に行くものなど、対象としない部分もうたいこみをさせていただきまして、制度設計をさせていただいたものでございます。

石井委員 それと団体種目でも、例えばこれは塩尻市内の出身の選手ということだと思うけども、その場合にチームじゃなくて個人でもいいの。

田下生涯学習スポーツ課長補佐 そうです。団体につきましては、市内にあります市内に本拠地のある団体ということで規定をさせていただいておりますので、例えば小学校、中学校、高等学校、もしくはクラブチームで塩尻市に本拠地のある団体という規定をさせていただいております。個人につきましては、例えば塩尻在住で市外の高等学校に行かれていますお子様がインターハイに出場する場合、こちら個人の部分で該当をさせていただくものでございます。

石井委員 はい、わかりました。

小澤委員長 ありがとうございます。

林職務代理者 ちょっと聞きたいのですが、塩尻市のほうでは、例えばオリンピックとか同等の国際大会で優勝した人に対しては、何て言うのか、お祝い金みたいなものの準備はあるんでしょうか。

田下生涯学習スポーツ課長補佐 私の承知している限りでは、今まで制度はございません。ただ、実際そういう方が出た場合につきましては、臨時的な制度をまた検討する必要があるかと思えます。

林職務代理者 ありがとうございます。

小澤委員長 東小出身で小澤美夏さんがいます。

林職務代理者 そうですよ、冬季オリンピックに出場しましたよね。

小澤委員長 隣のクラスにいましたが、お祝い金みたいな対応だったかと思えますが。

林職務代理者 何か臨時的に考えていただけのですね。

石井委員 小澤さんに、出したでしょう。

小澤委員長 そう思います。

青木こども教育部次長（教育総務課長） 今まで制度はなかったんですが、実際にオリンピックに出場したということで、そういうタイミングで激励金を出しております。今後はこういう制度がありますので、制度に則って対応していくということです。先ほどの、優勝すればどうなるかということについては、そのときに考えることになると思えます。素晴らしいことですので、市としても何らかの対応はすることになろうかと思えます。

○その他第2号 平成28年度塩尻市教育委員会関係補正予算（案）について ＜期間限定非公開＞

小澤委員長 では、補正予算についてであります。期間限定の非公開扱いといたしますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

小澤委員長 非公開といたします。事務局から御説明をお願いいたします。

田下生涯学習スポーツ課長補佐 それでは引き続きまして、資料のNo. 5、12ページをお願いいたします。こちらにつきましては、今回激励制度を設けることに伴いまして、既存のですね、1行目、2行目でございます全国大会等出場激励金と国体出場者激励金を全て見直しまして減額をいたしまして、3番目でございます青少年スポーツ全国大会等激励金、こちらがスポーツ夢基金より激励金ということで、先ほどの要綱の部分と4行目でございます全国大会等激励金、こちらは国民体育大会、社会人等の激励金ということで、制度にあわせた激励金の予算として、今回補正予算上程させていただくものとなります。以上です。

小澤委員長 御質問ございますか。

1年間に大体200万円近く激励金をお渡しするだろうと、こういう目測ですか。

田下生涯学習スポーツ課長補佐 こちらの金額につきましては、過去3カ年の全国大会の状況を考慮いたしまして、予測すると200万円程度、夢基金による激励金が出ていくであろうと推測したも

のでございます。

小澤委員長 そうすると、5年くらいでなくなります。あとは一般会計から出すと、こういうふうな形になるんでしょうか。

田下生涯学習スポーツ課長補佐 今回の6月議会に、基金条例の改正の中でスポーツ夢基金ということで提案させていただきまして、議決後にこの制度を継続的に維持していくために、より広く寄附を募っていくことも必要であろうと考えておりますので、そこら辺のPRの方法でありますとか、御寄附いただいた方の榮譽というか御厚意に対しまして、顕彰をさせていただく制度等検討させていただく予定となっております。

小澤委員長 よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

6 閉会

小澤委員長 以上で全て終わりました。事務局からこのほかにございますでしょうか。

米窪教育企画係長 特にございません。

小澤委員長 ありません。委員のほうからは。

小島委員 ありません。

小澤委員長 ありません。

では、以上を持ちまして、5月の定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

○ 午後2時3分に閉会する。

以上